

# 殿塚・姫塚古墳の研究

—人物埴輪の三次元計測調査報告書—



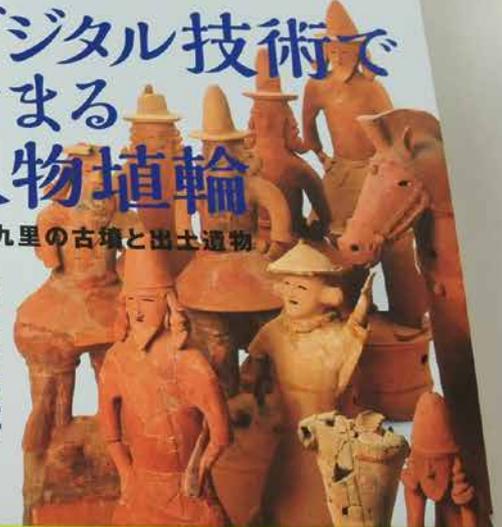
城倉正祥 編

立一書房

# デジタル技術で せまる 人物埴輪

九十九里の古墳と出土遺物

城倉正祥



大迫力のデジタル画像で

髷の武人・  
首飾りの女子や  
馬子…。

# 古代の人びとの姿が 今よみがえる!

吉川弘文館  
定価(本体2,700円+税)

## 殿塚・姫塚古墳の姿が明らかに —報告書の刊行—

昭和31年、殿塚・姫塚古墳が発掘され、古代の息吹を伝える数多くのはにわが出土しました。そして発掘から61年経った今年、最新の技術を用いて作成した発掘の報告書が完成しました。

殿塚・姫塚古墳の発掘は、芝山仁王尊の濱名徳永さんと早稲田大学の滝口宏教授によって、昭和31年に行われました。発掘作業は町民や近隣学校の生徒などが積極的に協力し、昭和30年に誕生したばかりの芝山町を挙げての一大事業だったといえます。その結果、現在千葉県指定有形文化財になっている9点のはにわを始め、学術上貴重なはにわが出土しました。

しかし、さまざまな理由から、これまで発掘の成果を記した報告書は作成されませんでした。そこで、早稲田大学・芝山仁王尊・芝山町が共同で殿塚・姫塚古墳の調査研究を進めることになり、平成26、27年の2年間はにわの撮影・計測作業が行われました。この作業では3次元計測という最新技術を用い、はにわの3D画像を作成。その結果、昭和31年発掘当時の白黒写真から最先端の3D画像までが掲載された、今までにない報告書「殿塚・姫塚古墳の研究」(以下、「報告書」と、九十九里地域のはにわも併せて掲載した一般向けの「デジタル技術でせまる人物埴輪」(以下、「一般書」)が刊行されました。

芝山仁王尊観音教寺

住職 濱名徳永さん

当寺では殿塚・姫塚古墳出土のはにわを博物館で保管してきました。今回このような立派な報告書が完成し、はにわの素晴らしさをより多くの人に知ってもらえることは、私もうれしく思います。

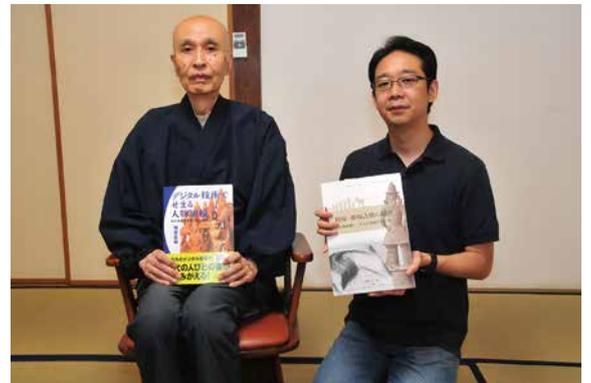
私は当初から殿塚・姫塚古墳の発掘に関わってきました。そのため、発掘したはにわをまとまったまま博物館で保管することができ、散逸を防げたのだと考えています。はにわについて素人の私ができるような無茶なことができたのも、若かったことと仏様のご加護があったからだと思います。

これからは、研究者の研究成果を博物館に置いたり、学校の教師やはにわが好きな人を集めて講演をしたりと、博物館が地域で活躍する仕組みを考えていきたいと思えます。



## Interview

6月21日、中心となって報告書を作成した早稲田大学准教授の城倉正祥さん(写真右)が、芝山仁王尊の濱名徳永さん(写真左)を訪問しました。その際、お2人に報告書への思いをお伺いしました。



早稲田大学文学芸術院

准教授 城倉正祥さん

姫塚古墳からは50体近くの人物はにわが出土しており、これは学術的にも貴重なものでした。しかし、報告書がないため、今まで研究者が研究に利用できませんでした。3次元計測したはにわの図や写真をもとめたこの報告書の刊行によって、多くの研究者が利用できるようになります。また、芝山町にとっても大きな成果だと思います。

報告書と一般書は、芝山仁王尊と町、そして早稲田大学の3者共同で行ってきた事業の集大成です。ぜひ多くの人の目に触れてほしいですね。



▶ 三次元計測の結果、はにわ製作の際の刷毛目まで分かる3D画像が作成された。報告書にはその画像が多く掲載されている。

### 報告書と一般書はどいて読めるの？

中央公民館図書室、福祉センター図書室で読むことができます。

また、一般書は芝山仁王尊、芝山古墳・はにわ博物館で販売しており、報告書も今後販売予定です。